

「教職課程年報第19号」の発刊に寄せて

教職支援センター長

三宅 茂夫

我が国の出生数や特殊出生率は過去最少を記録し続け、国の行く末をさらに憂慮する事態となっています。こうした少子化は、今後さらに社会の状況やしくみのみならず、学校などのあり様を大きく変えていくことが予測されます。すでに学校等の現場では、学校の統廃合の加速化や教員不足などの問題を生起させています。他にも、学校等における少子化がもたらす問題については枚挙にいとまがありませんが、なかでも教員不足はとくに深刻なものと言えます。教員採用試験の前倒しなどは、その中でも大きな影響と言えるでしょう。大学においても、教員等の養成に係る学部学科の入学者の激減や教職課程等履修者の減少など「教員のなり手不足」に繋がる状況が顕在化し、一方で教職課程カリキュラムの見直しなどにも影を落としています。

少子化と教員（以下、保育者も含めます。）の不足、これらの間に連関はないのでしょうか。様々な要因がありますが、少子化については「経済的に余裕がなく、子どもを産み育てるのが難しい」と言った声がよく取り上げられ、教員不足については若年層の人口減少による労働人口の減少や職務内容の特殊性、ネガティブなイメージなどが言われます。しかし、それらだけでなく、もっと根源的な原因があるのではないのでしょうか。命を守り育むことの素晴らしさや喜び、そうした過程を子どもとともに毎日紡いでいくなかで、互いが育ちあう互恵的な営みに魅力を感じなくなってしまったのかもしれない。育む側・保育や教育をする側の具体的な役割、責任や忍耐、それらが一方ならぬものであることは言うまでもありません。われわれみずから家庭や学校、社会などで、親や教師、周囲の人々の中で愛情を得て誕生し、育まれてきました。子育てや保育・教育は、決して性急な効果性や合理的な効率性でもって捉えられる性格のものではなく、子どもが現在を生き、将来を生き抜いていくための一つ一つの学びは、場合によっては時間をかけ、姿をかえてその影響・効果が出現していくような類のものです。育まれてきた側が認識しているかどうかはわかりませんが、その学びや生活の過程で着実に知識・技能のみならず人間性等が育まれてきたことに疑いはありません。そうした場面に臨場し、子どもたちの育ちを共有し、素晴らしさを分かち合うことのできるのが教員という仕事です。また、教員自身も子どもとの日々の様々なかかわりや教育・保育を通して、合わせ鏡のようにみずからの生き様にも気づかせてもらいます。そうした中で教員を養成するということは、単に教員に必要な知識や技能を伝達するのみならず、学生がみずからの存在の意味や感謝、これまでの生き方や未来への生き方を深く考え、子どもたちの育ち・学びに喜びをもってかかわることに気づくきっかけを提供することに繋がるものと考えられます。どうぞ、授業等を担当いただきます先生方におかれましては、そうしたことを念頭に置きつつ、学生の適切で個性的な教育観などに昇華される授業をお願いする次第です。

教員養成を取り巻く厳しい環境下にあっても、社会や国の担い手を育成する学校は、決してなくなりはありません。したがって、いかになり手が少なくなったとしてもわれわれには、一人でも多くの有意有能な教員を育成していく使命があります。そのためには、まず教員になりたいと考えて入学してきた学生や教職課程等を履修したいと思う学生の動機を高め、資質・能力の高い教員に育てあげていくことです。さらに、養成－採用－研修という一貫したシステムを構築してくことも求められます。とりわけ教員になった後のフォローアップなどのシステムづくりについても今後検討すべき課題と考えます。

本学をはじめ教員養成を行う大学等においては、「先生」になりたいという生徒をさらに増やし、入学者増に繋げていくことも同様に大切な課題となっています。働き方や処遇の問題など教員を取り巻く環境には依然厳しいものがありますが、魅力ある仕事であることを高校生たちにどう伝えていくのかのアイデアが求められます。こちらの言説で一方的に伝えても彼らの心を動かすことはできませんし、もはや教員採用試験等の好成績を伝えるだけでも響きません。教員としての基礎・基本を主体的・対話的に深く学びつつ、「自分のなりたい教員像」を次第に明確にしつつ、本学の学生たちが生き生きと創造的に学ぶ姿を自分と重ね合わせて「生き甲斐を感じさせてくれる仕事」として捉えていけるように伝えていく必要があると思います。そうしたアイデアについて、それぞれの先生方にお考えいただき、学科で検討し、ご提案を賜われれば幸甚です。

毎年同じようなフレーズをお伝えしていますが、今年度も過去最高の教員採用試験の合格率を記録しました。結果にかかわらず、一人一人の学生のみなさんの努力に敬意を表すとともに、晴れて教壇に立つみなさんが教員として、自分らしく成長・大成されることを祈念しております。卒業後も神戸女子大学は、みなさんを応援し続けています。何か心配なことや困ったことがあれば、遠慮なくお世話になった先生方や教職支援センターに連絡を入れてください。これまで陰になり日向となって教職課程教育や教育実習、教員採用試験等に向け学生たちを教育し、支えていただきました関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。

学生として教員を目指すみなさんは、今後も多くの学修や経験を積み重ねていくことになります。志を高く持ち、教壇に立ったその時をイメージし、希望をもって主体的・挑戦的に学んでほしいと思います。その中で常に専門性を高め、実践的な資質を身に付ける努力と、常に進歩する自分を念頭に探求していく態度を培って下さい。また、視野を広げ、多様なことを学ぶのは、みずからの人間力を高める上で有益です。大学時代にしかできない多様な学びをみずからが探求し、積極的に取り組んでほしいと思います。

教職支援センターは、今後も資質の高い教員養成、特色ある教員養成、学び続ける教員の養成を目指し、また教職を志す学生の目標実現を図るために全学的に教職課程を統括する組織として教育部門と事務部門が一体となって支援を行っていきます。今後ご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。